



所内 第4回 写真コンクール 入選作
「サンドダイク」
燃料部 石油課 柴田 賢



上部写真の遠景

サンドダイク

釧路炭田の含炭層群である古第三系の浦幌層群中にはこの地方の地質構造線に平行した砂岩脈が多数知られている。これらの砂岩脈は、新しい地質時代に砂が海底の浦幌層群中の割目を満たし、固結してできたものと考えられ、釧路市内だけで巾10cm以上のものが20本あり、そのうち最大のもは巾3m以上、確認された走向距離3km以上におよぶ。

写真は、釧路市東南の興津浜におけるこの地方最大の砂岩脈の露頭である。ここでは砂泥互層からなる雄別層中に見られ、N20°Eの走向と80°Eの傾斜をもち、巾約3.5mで、砂の中には新しい地質時代（洪積世と云われている）の化石破片を含んでいる。

三人の女性のロッククライミングは別に注文したのではなく、彼女らは近くのボタ山へ石炭を拾いに来て、砂岩脈を登りかけたところを、たまたまわれわれ一行に

発見され、奇しくも地質ニュースにのるといふ光栄に浴した次第である。

ぶじ南極から帰ってきました



菊池 技官

釧路部 菊池 徹
去る3月24日、1年間の南極越冬からぶじ帰りました。無力な私がこの重任を果たすことができましたのは、一重に皆様の絶大なる御援助の賜と、深く感謝いたしております。

詳しい報告は近く本誌に発表いたしますが、とりあえず御挨拶申し上げます。

なお、私は東大助教授立見辰雄博士とともに、地質調査の一端を受持ちましたが、前人未踏の南極の地に足をふみ入れるという喜びの連続で、全く「わが生涯最良の年」を味わって参りました。この幸福も皆様の御厚志に負うところが大きでありまして、いく重にも御礼申し上げます。

おねがい

地質ニュースは本号で、創刊5周年を迎えましたが、これもみな読者各位の御支援の賜と厚く御礼申し上げます。

さて、この機会にあなたの御意見をお伺いして、さらに内容の充実を計りたいと思っておりますので、御多忙中のところ誠に恐縮ですが、添付カードに御意見御記入の上御投函（5円切手貼付）下さい。

なお、発行部数の都合上、希望者へ漏れなく配布できず、御迷惑をおかけしておりますので、配布の適正を期するため、その調整を考えております。

このカードは配布基準の資料その他となりますから、お忘れなく御投函下さるよう重ねてお願いいたします。

（企画課 広報係）

庶務課移転のお知らせ

溝ノ口本所の庶務課は一部を残し、その大部分は4月30日下記へ移転しました。

東京都新宿区河田町8

地質調査所 庶務課 Tel. (34) 7131-8